

現地相談員による農業者、関係者との調整

～基盤整備を契機とした茶園の集約～
地域計画の策定に向けた取組事例



「世界で一番、強く、美しい茶園に」

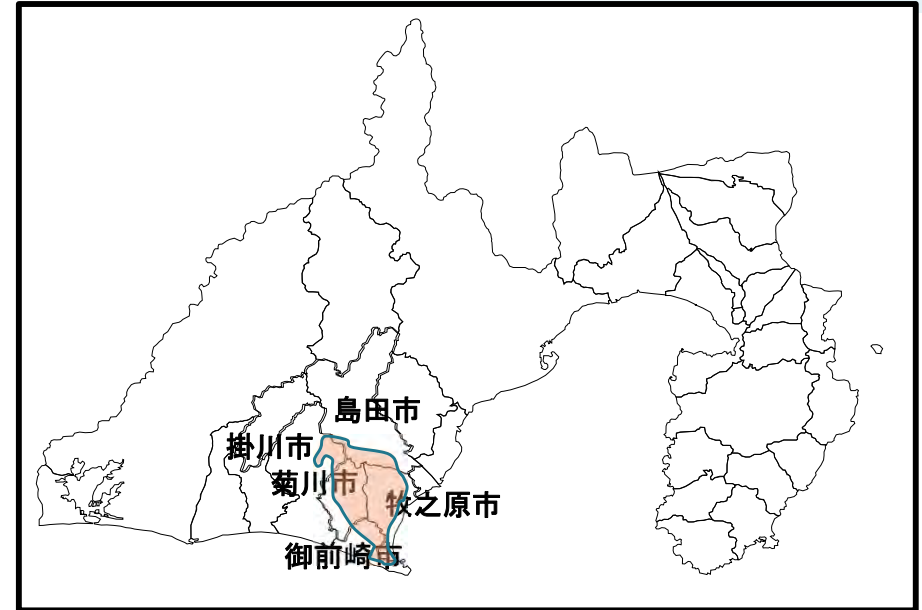
公益社団法人

静岡県農業振興公社 島田駐在 秋山初次

牧之原茶園の紹介

牧之原大茶園は、静岡県ほぼ中心に位置する大井川の西側に小高く連続して広がる広大な台地で、日本一の茶の集団栽培地です。その面積は約5,300ha、これは日本の茶園の12%になります。

茶園開発は、以外にも歴史が浅く、明治2年から、徳川家臣団や大井川の川越人足による茶園開拓で日本一の大茶園となりました。



牧之原が、日本有数の生産地になったのは、気候や土壌、交通の便の良さ等の地理的条件のほかに、明治期に入植した方々のご苦労と、茶業関係者の尽力のおかげと言えるのです。



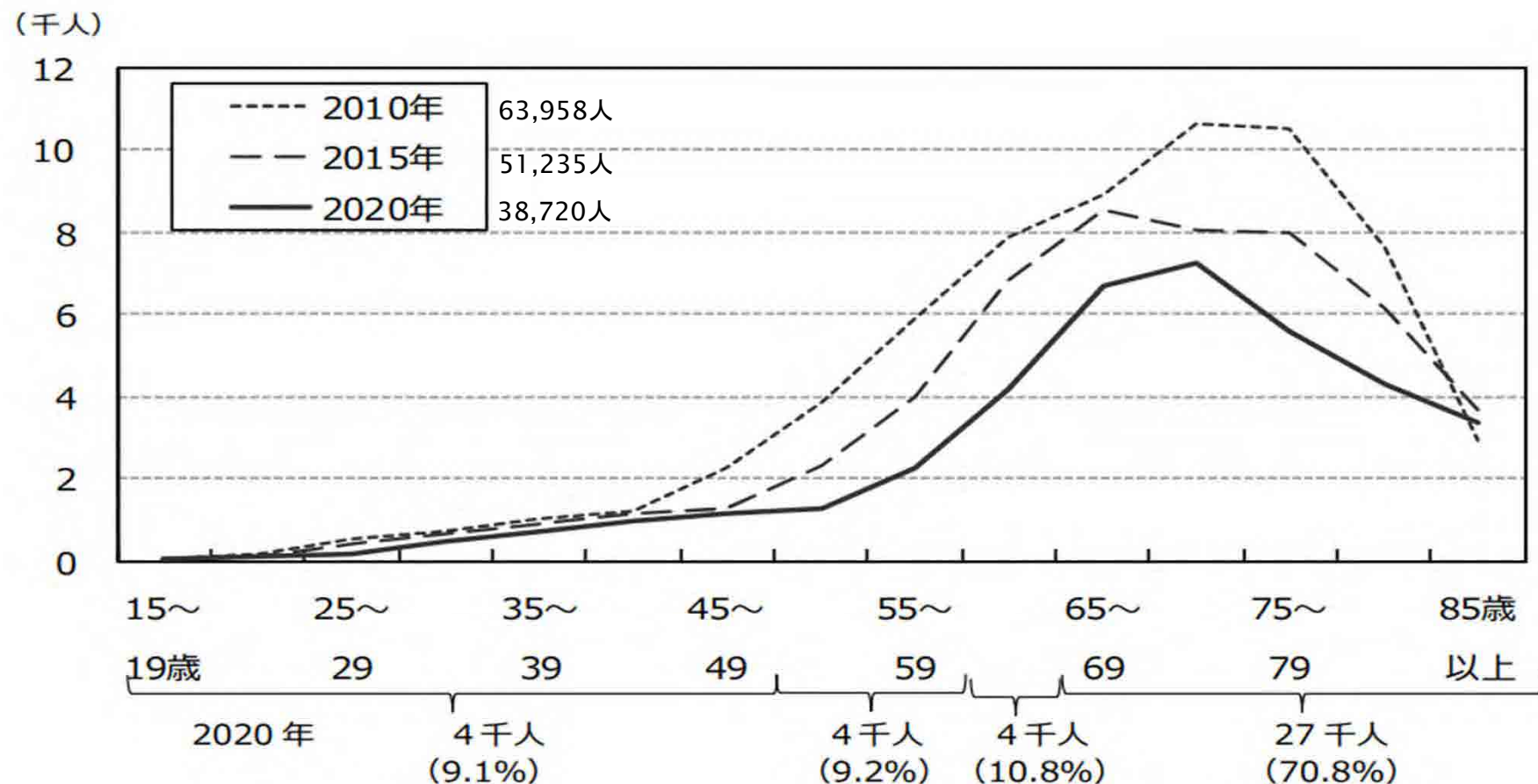
牧之原茶園の現状 ①

多くのほ場は、小面積、不整形、**段差**、接道していない茶畑



牧之原茶園の現状 ②

生産者の減少 (農業者の高齢化、後継者不在)

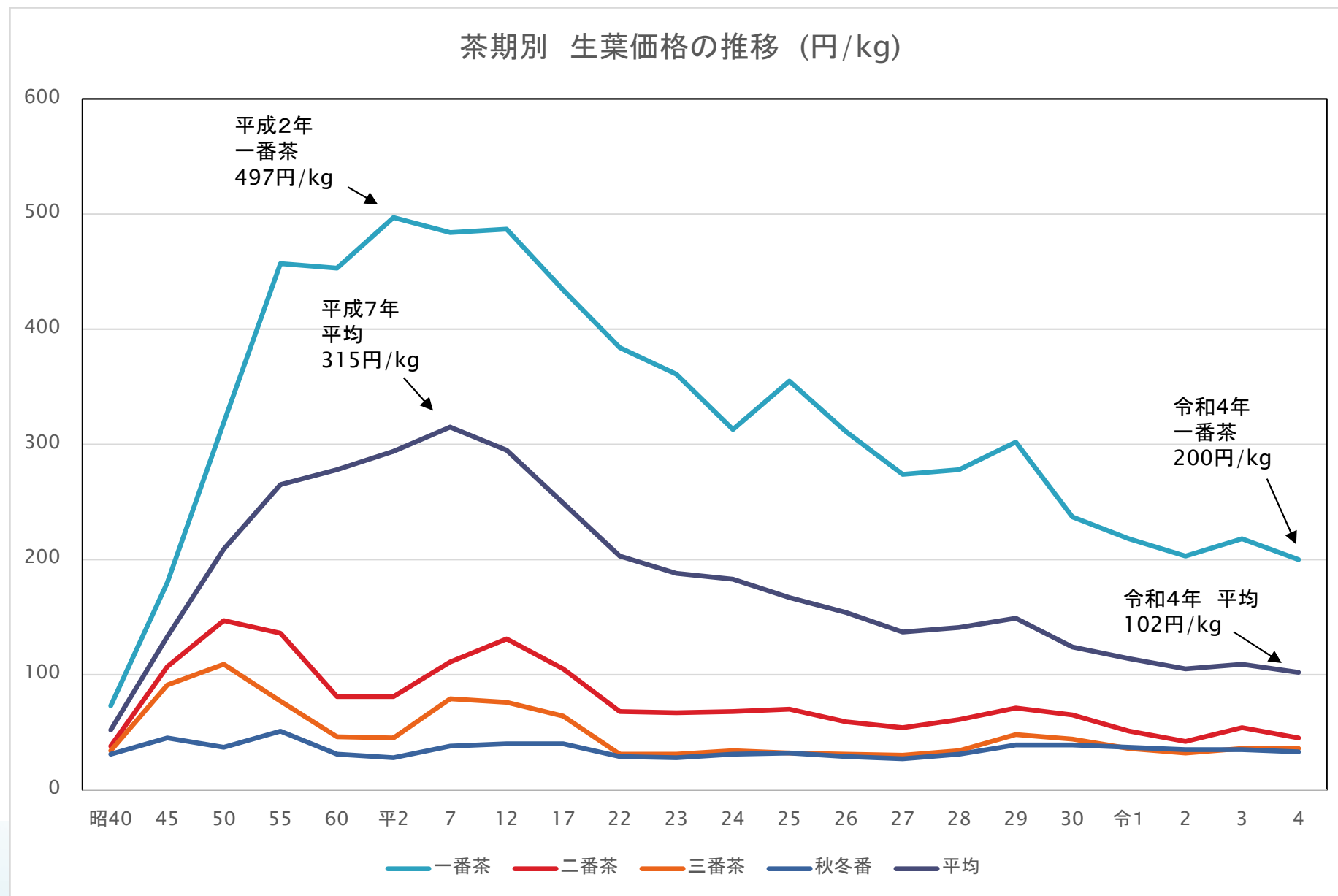


資料:農林業センサス(農林水産省)

基幹的農業従事者数(静岡県)

牧之原茶園の現状 ③

茶の価格低迷



西原地区モデル基盤整備事業(機構貸借を活用した発祥の地)

牧之原台地の茶栽培の将来を危惧する若手農家3人が中心となり、行政など関係機関の支援を得て、モデル地区として基盤整備事業を実施した。

(令和4年度 関東農政局土地改良事業地区営農推進功労者表彰を受賞)

目的	農地を集団化し、優良農地化することにより茶栽培の生産性の向上を図る	
経過	H24年 8 月	若手農業者3人が発起人となり「基盤整備勉強会」を設立
	H27年 3 月	地権者の合意を得て、基盤整備事業の法手続き開始
	H27年 5 月	基盤整備組合設立、事業採択、造成工事着手
	H29年 3 月	造成工事完了(確定測量及び換地処分登記完了)
事業内容	区画整理	A=4.7ha
	暗渠排水	A=4.7ha
	農作業道	L=877m (枕地L=400m)



事業実施前



事業実施後

西原地区の事業効果



施工見学会の状況

西原地区がモデルとなり、集約を目的とした基盤整備事業が軌道に乗っていきます。



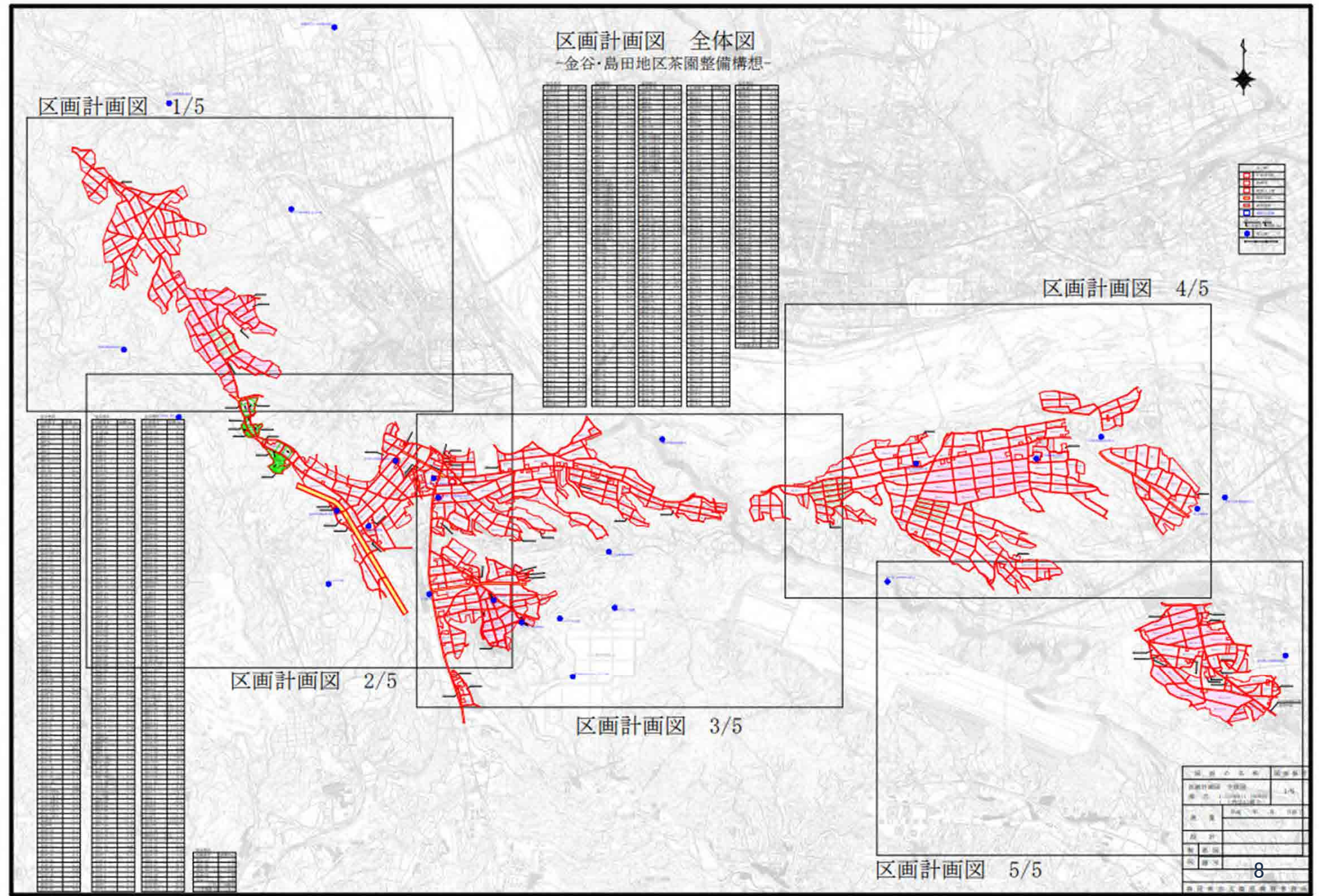
1 haを超える団地が3カ所でき、集約化が実現しました。

区画整理の効果



項目	実施前	実施後	事業効果
農家数	30戸	11戸	△19戸
団地数	42団地	11団地	△31団地
筆数	81筆	27筆	△54筆

金谷・島田地区茶園整備構想



牧之原茶園の再編整備プロジェクト

牧之原茶園再編整備推進協議会（R3年5月～）

事務局：牧之原畑地総合整備土地改良区

行政：静岡県、5市（島田市、牧之原市、掛川市、菊川市、御前崎市）

農業振興公社、農業会議、県土連

J A：農協中央会、経済連、JA（大井川、ハイナン、掛川市、遠州夢咲）



「地域の話合い」

茶生産者

（担い手、農業者）

目指すべき将来像

茶産地の再生

新たな農業の導入

美しい茶園景観の保全

基本方針

- ・長期的な農地利用
- ・需要に応じた儲かる茶産地への転換
- ・担い手への集積・集約
- ・基盤整備の推進
- ・水需要に応じた水利施設の管理、更新・再編整備
- ・マーケットインによる複合・転換作物の導入
- ・農地の保全管理

改良区：牧之原畑地総合整備土地改良区

所在地：島田市中溝町1726-4

面積：5096ha

組合員数：9,256人

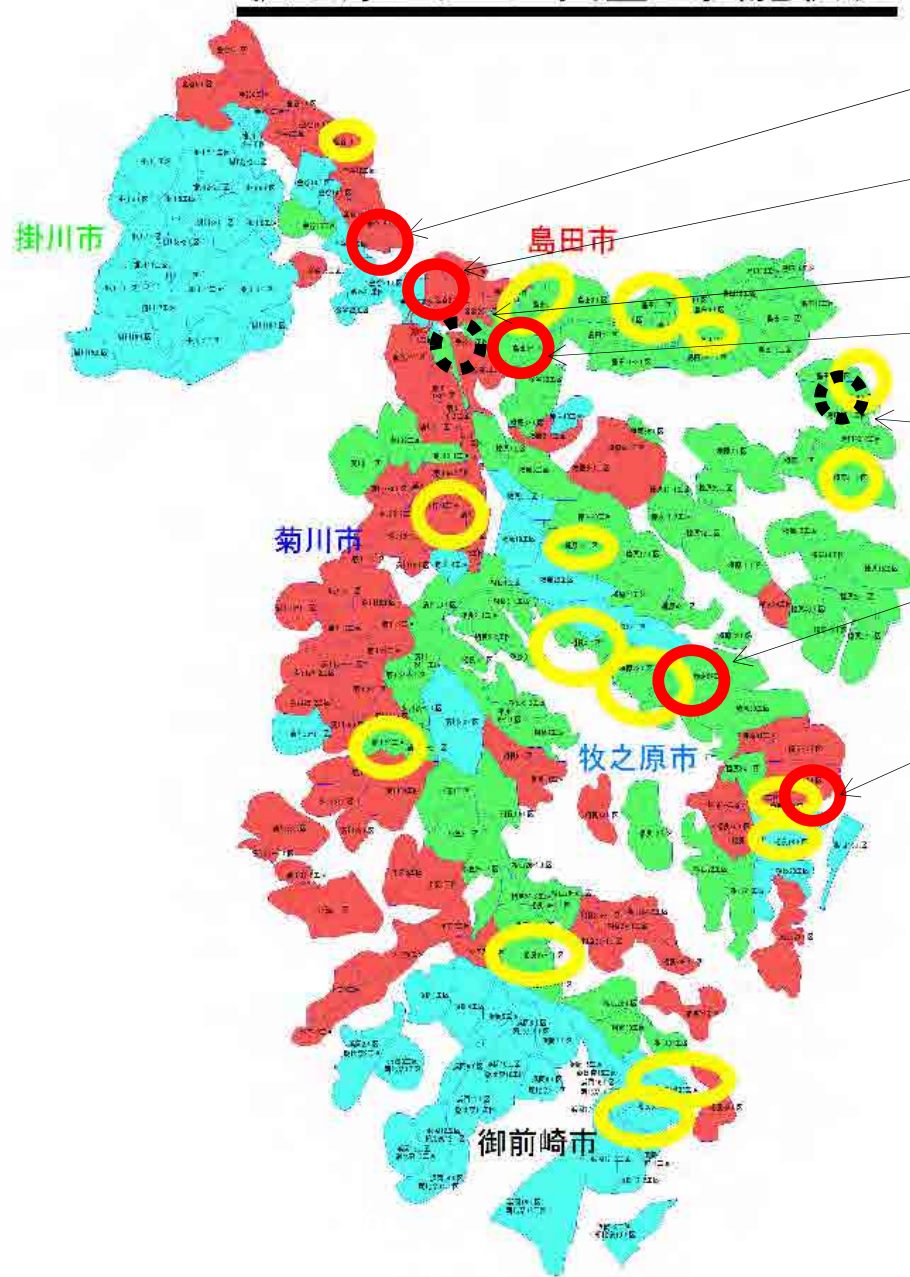
役員数：理事25人 監事5人

主要作物：お茶

牧之原プランの区画整理地区



牧之原地区 区画整理実施状況



<実施+推進地区 一覧>

・西原地区(モデル地区)

A=4.7ha(H27~29)

・諏訪原地区

A=6.9ha(R3~

・大原地区(推進中)

・切山地区

A=11.3ha(R3~

・南原地区(推進中)

・朝生原地区

A=21.8ha(R2~

・静波地区

A=6.4ha(R元~3)



実施地区



推進地区(事業化に向け調整)



未着手地区



切山地区 事業概要

事業名	農地中間管理機構関連農地整備事業 (R3～)		
受益面積	11.3 ha		
受益者数	51人 (担い手3人に集約)		
事業内容	区画整理工A=11.3ha、支線道路L=1.5km		
主要作物	茶		
事業効果		(現況)	(目標)
	担い手の集積	0.56ha	→ 9.77ha
	担い手の集約	0.00ha	→ 9.77ha

施工前 (衛星写真)

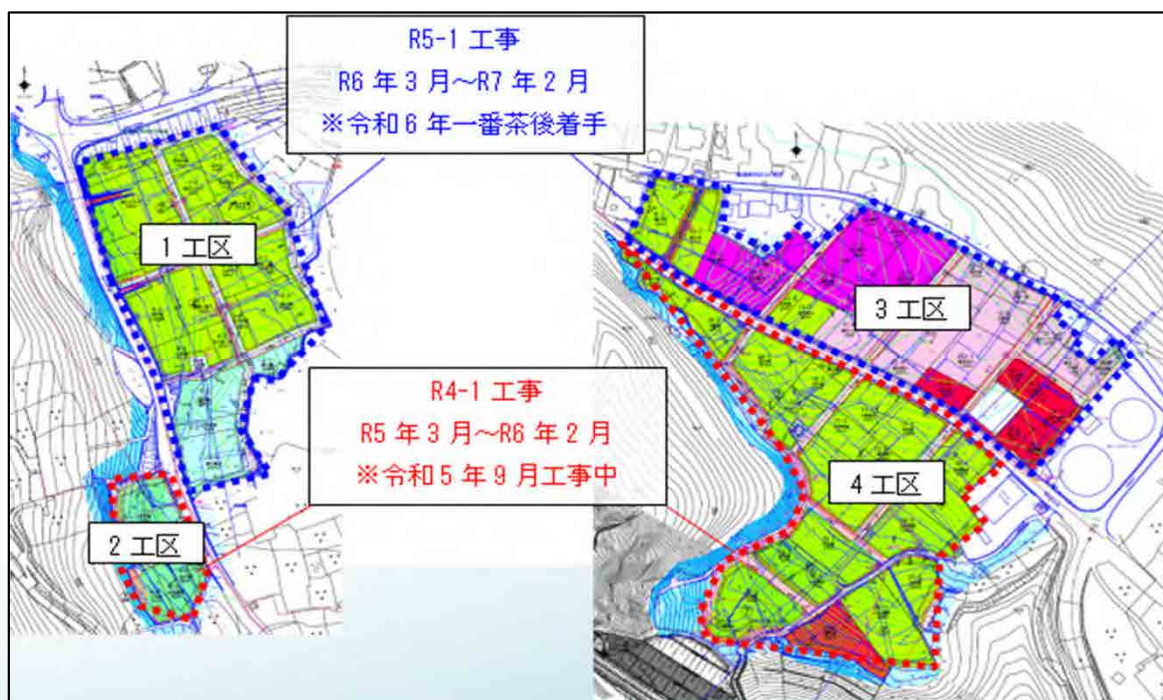


計画図面



諏訪原地区 事業概要

事業名	水利施設等保全高度化事業(畑地帯担い手育成型) (R3～)		
受益面積	6.9 ha		
受益者数	69人 (担い手5人に集約)		
事業内容	区画整理工A=6.9ha		
主要作物	茶		
事業効果		(現況)	(目標)
	担い手の集積	0.90ha	→ 6.10ha
	担い手の集約	0.00ha	→ 6.10ha

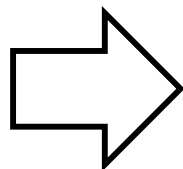


現在推進している地区の組合設立経過

発起人(勉強会)・・・7人 ～農業者以外の方も参加～
地区内の耕作者 2人
地区外の担い手 1人
農業者以外 4人 (元自治会長、元農業委員、元JA職員、元農薬会社勤務)

推進委員 ……20人 ～地区全体の総合力を引き出す～
発起人 7人 ※重複者あり
茶工場 6人
防霜ファン組合 2人
水利組合 2人
認定農家 2人
地権者代表 2人
最適化推進委員 1人

基盤整備組合 ……関係者全員
農地所有者 (全員)
担い手
推進委員



中間管理事業 機構への貸借(調印)
基盤整備事業の同意署名

地域の合意形成

①目指すところの共有

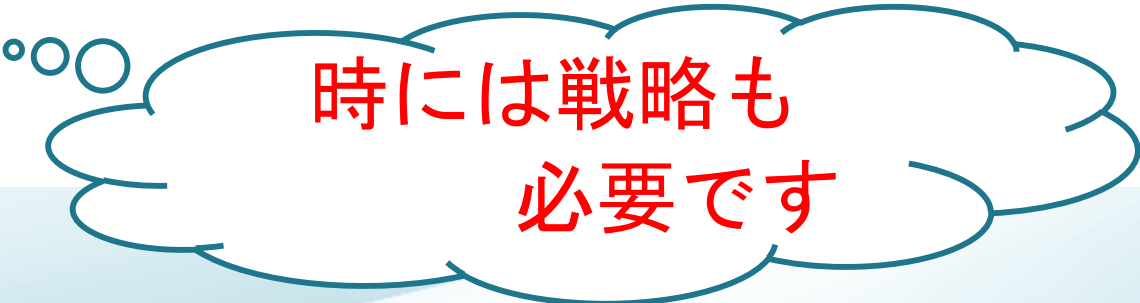
- ・ この地域の将来のあり方をイメージする
- ・ そのイメージを複数人で共有し、達成に向け行動する仲間を作る
- ・ イメージは、具体化し「取組」とする

②共有の輪を拡大

- ・ 口コミや、関係機関のチラシに取組を掲載するなど周知する
- ・ 始めは少人数で、徐々に組織化を拡大する
勉強会→推進委員会→整備組合

③反対者の課題を取り除いて説得

- ・ 反対者や、事業に関心のない人は、必ず理由がある
- ・ その理由（課題）を聞き取り、その課題解決を図る

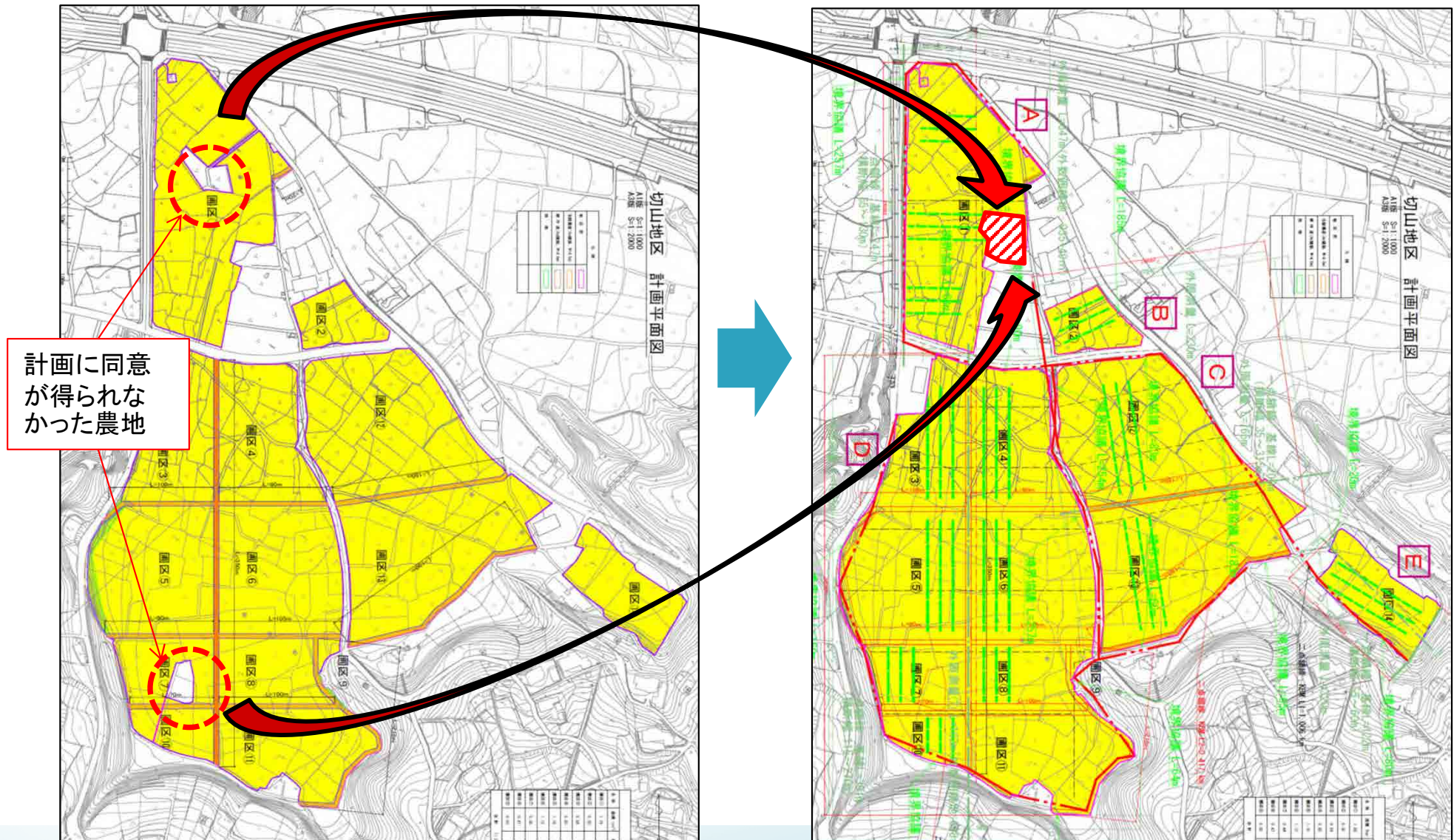


時には戦略も
必要です

地区とりまとめにあたっての工夫

当初計画時点

現在の事業計画



地区外周部の農地を所有している地権者と交換

課題解決 事例

やる気はある担い手だが、事務が苦手で発起人をためらう

- ・「関係する事務は、私がやる。あなたは、地主への説明と合意の取り付け頼む」と、役割を分担した。

茶の未収益期間が長く、事業に参加しない

- ・圃場内の工事は、二番茶収穫後に着手し、翌年3月までに苗木を定植できるように単年度で完成させた(施工規模を限定する)。未収益期間を可能な限り短縮し説得した。
- ・他地区で、代替え農地を探し、それを当てがうことで了解を得た。

基盤整備の農家負担が大きく、事業参加に後ろ向き

- ・あらかじめ10a当たりの限度額を決め、その範囲内で整備内容を検討することを提案し、合意を得た。

課題解決 事例

基盤整備にメリットを感じず事業に反対

- ・市、農林事務所、換地士を動員し、分散している農地を1カ所にまとめるなど換地の説明を行い、理解を得た。

勉強会、推進委員会における行政の活用

- ・勉強会、推進委員会などで、行政（市役所、農林事務所）に効果的な資料作成、説明を要請し、出席者の理解を得た。

信頼関係の構築

アンケートの用紙、資料や連絡の通知は、必ず手渡しで行う。
また、不在だからとポストに入れたり、玄関に置いておくことはしない。
そして、書類の受け取りも必ず手渡しで頂く。

- 目的
- 1 面談することで相手の事情を聞いたり、こちらの情報を提供できる。
 - 2 会うことにより話ができ、相手の事業に対する考え方が判断できる。
 - 3 質問があれば、その回答を届けることで、また面談ができる。

こうして地権者と話し合いの機会を重ねることで、信頼関係が出来上がり
事業同意が得られる。

地域計画の策定に向けて

牧之原大茶園では、牧之原茶園の再編整備プロジェクトの計画を踏まえ、基盤整備を計画的に実施していきます。

このため、地域計画の各地域で行われる協議の場では、行政、JAが連携し、担い手への集約の手段として、中間管理事業の活用と基盤整備の実施をテーマに掲げ、皆さんと話し合いを進めていきます。